

AGM & Weekend 2012

2012年のAGM（年次総会）およびWeekendは東京・練馬区の光が丘ドームで行ないます。くわしくは3月にお送りする案内書でお知らせいたしますが、概略はつぎのとおりです。ふるってご参加ください。

2012年6月1日（金）～3日（日）
光が丘ドーム（練馬区高松5丁目）
都営地下鉄大江戸線・光が丘駅下車15分
（宿泊はホテルカデンツア光が丘）
¥27,000（早期申込みは¥26,000）
講師 マービン・ショート
音楽 小海弘子+大竹奏
ゴム底靴は不適、皮底靴で■

2012-13 年度運営委員候補募集

現在のブランチ運営委員の任期は3月で終了します。AGMで新しい委員を選出しますが、その候補を募集しています。自薦、他薦、経験の有無を問わず、ブランチ運営にご協力くださるかたは、どうか現ブランチ委員（だれでも結構です）にご連絡ください。ダンシングを楽しむばかりが能ではない、2年間運営にかかわろうか、という心意気のかたが多くいらっしゃることを期待しています■

2012 年度会員登録

みなさんの東京ブランチ会員権は3月で満了いたします。引き続きブランチ会員を継続登録いただきたく、2月に案内書・登録用紙・振替用紙をお送りしますので、できるだけ早く登録手続きならびに会費ご送金をお願い申し上げます。本部会費額は1月末の3ブランチ連絡会で決まりますが、昨年と同額の見込みです■

ブランチクラス

ビギナーズ・クラス

2月13日・27日（月）1.30 - 4.00

3月12日・26日（月）1.30 - 4.00

以降第2・第4月曜日

千代田区スポーツセンター5F

講師 長峯真弓

4・5・6月の講師 寺久保ヒロ子

¥500/クラス

担当 井口弓子 048-924-9447

インターメディアイト・クラス

2月6日（月）1.30 - 4.00

千代田区スポーツセンター5F

講師 神倉那智子

3月5日 講師 金田治子

4月2日 松木道子

5月7日 星野 薫

6月4日 神倉那智子

¥500

担当 山田美代子 03-3696-9180

ゼネラル・クラス

2月4日（土）6.20 - 8.30

千代田区スポーツセンター5F

講師 境雅子

3月3日 講師 長峯真弓

4月7日 小幡正明

5月5日 西森典子

6月 休止

¥500

担当 篠塚昌子 029-855-4728

いずれのクラスも会場の変動が予想されるため、毎月のブランチニュースで会場をご確認ください■

JEC 2013 発足

2013年春に東京地区で実施される3ブランチ合同のティーチャー試験にむけて、このほど試験委員会 JEC 2013 (Japan Examination Committee 2013) が発足しました。

委員長 小山かおる
セクレタリ 長峯真弓
トレジャラ 寺久保ヒロ子
委員 五十嵐成子
西田淑子
山本リエ

受験予定者リストの作成からはじまり、ティーチャー試験の終了まで、試験に関する責任と権限はブランチから JEC 2013 に移管されます。一般の会員に直接影響するのは試験当日のボランティアですが、それ以外の案件でも JEC 2013 を積極的に支援くださるよう、ブランチとして会員各位にお願いいたします。

なお、次回 Unit 1 (筆記) 試験は 2012 年 10 月 13 日 (土) に行なわれます。受験希望者は早めにセクレタリ長峯真弓さん (Tel 0480-34-3057) にご連絡を。■

2011 年度東京ブランチ賞は見送り

2011 年度の東京ブランチ賞受賞者のご推薦をお願いしましたが、会員からの推薦はありませんでした。委員会において外国ブランチの人も対象に含めて受賞者を協議しましたが、該当者なしの結論で、2011 年度の東京ブランチ賞授賞は見送ることになりました■

運営委員会報告

10月1日

- 10/22 Social Dancing の準備は OK。大勢の参加者を期待する。
- 1/9 New Year Dance 2012 のプログラムを決定した。会員へのチラシ送付は 11 月。ミュージシャン、MC の交通費など経費増であるが、会費は従来どおり 1,000 円とする。
- Weekend 2012 の会場について、候補先のホテルカデンツア光が丘の下見を 10 月内に行なう。外国人講師はマービン・ショートが来日を快諾してくれた。ミュージシャンも小海弘子・

大竹奏さんの OK を得た。

- 本部 AGM 代議員選出について本部から名簿提出の催促あり。クレメント篤子さんと調整し、至急送付する。
- 来年、2012 年 9 月に Social Dancing を予定する。

11月5日

- 10/22 Social Dancing は 62 名の参加。とくに不可なところはなかった。入場時、氏名を書きたがる人が多い—氏名を書いてもらっても、ブランチとしては何の使いみちもないが、今回は紙だけ用意する。手持ちプロがほしい人もいた。
- 1/9 New Year Dance 2012 の会場準備協力依頼先を協議した。
- Weekend 2012 の会場候補としてホテルカデンツア光が丘の下見結果から同ホテルが有力となったが、正式見積書入手し、次回委員会でさらに協議する。
- ブランチ・クラスで忘れ物があり、その後始末で大いに苦労した。クラスに限らず忘れ物には困っており、今後すべての行事で忘れ物はただちに処分する。
- 本部は 2013 年の Book 47 用のダンスを募集しており、会員周知のためブランチニュースに一文を入れる。
- 2012 年度のブランチ・クラス講師は前年と同じく、すべてのブランチ・ティーチャーに指導可否を問い合わせてきめて行く。

12月3日

- 1/9 New Year Dance 2012 はチェアマン作成の分担・時間割リストにもとづき各担当を決めた。
- Weekend 2012 の会場候補、ホテルカデンツア光が丘から見積書入手した。諸経費を含めても妥当と考えられる金額で、ここで実施する。レイクホテル西湖の予約は取消す。
- ロンドン・ブランチのレイチェル・ウィルトンが本部功労賞を受賞した。
- ホームページ担当の三木真理さんに維持費を支出する。

1月7日

- 1/9 New Year Dance 2012 の準備は OK。ビギナーズ・クラスの何名かから参加希望あり、該当者には目印を準備し、他の参加者にダンシングで親切にされるよう告げる。

2. 童夢館抽選会出席者の選出 風見しづ江さん、尾崎淳子さんが名乗りをあげてくれた。ご厚意をありがたくいただく。
3. 2011 年度ランチ賞は見送りとする(別掲)。
4. 2012 年度ランチ・クラス講師をティーチャーからの指導可否回答にもとづき決定した。担当講師への日時連絡には回答状況ものをせる。
5. Weekend 2012 の参加費をあらためて協議し、決定した。レイクホテル西湖の予約は取消したが、同ホテルは取消しを残念がっていた。
6. 2 月の General Class は童夢館がとれず、千代田区スポーツセンター5F となる■

ランチ運営委員

チェアマン	西森典子	043-485-2528
セクレタリ	鳥山豊喜	044-988-7773
	t-toriyama659@jcom.home.ne.jp	
トレジャラ	松木道子	042-475-9054
メンバーシップ・セクレタリおよび		
ニュース担当	疋田千鶴子	047-467-1922
委員	井口弓子	048-924-9447
	山田美代子	03-3696-9180
	篠塚昌子	029-855-4728
	金田治子	043-485-8951
ホームページ	三木真理	0466-81-9961
	(三木さんは非運営委員)	

クラスで踊ったダンス

ビギナーズ・クラス

10月10日	三木真理	
	The Loch Ness Monster	Graded 2
	Jig to the Music	"
	Domino Five	"
	Ways in New Hall	Bk 42
10月24日	三木真理	
	The Borrowdale Exchange	Haynes
	Kendall's Hornpipe	Graded 1
	Catch the Wind	Bk 45
	Rakes of Glasgow	Bk 11
11月14日	三木真理	
	Catch the Wind	Bk 45
	Mrs MacLeod	Bk 7
	The Birks of Invermay	Bk 16
11月28日	三木真理	
	Blue Bonnets	Bk 3

	Adieu Mon Ami	Bk 24
	Hedwig's Reel	Graded 2
12月12日	三木真理	
	The Wild Geese	Bk 24
	The Byron Strathspey	Drewry
	Scott Meikle	Bk 46
	Jig to the Music	Graded 2
12月26日	三木真理	
	Kendall's Hornpipe	Graded 1
	Domino Five	Graded 2
	The Byron Strathspey	Drewry
	Mrs MacLeod	Bk 7
	Blue Bonnets	Bk 3
	Catch the Wind	Bk 45
	The Birks of Invermay	Bk 16

インターミディエイト・クラス

10月3日	渋谷明美	
	Up in the Air	Bk 20
	The Zoologist	Bk 46
	A Reel for Alice	Goldring
11月7日	掛川純子	
	Peggy's Strathspey	Bk 41
	Joie de Vivre	Bk 39
	John of Bon Accord	Bk 33
	Circle of Chair	
12月5日	篠塚昌子	
	Broadford Bay	Lflt 2
	Susanne's Strathspey	Goldring
	Miss Johnstone of	"
	Ardrossan	
	Granville Market	Graded 2

アドバンスト・クラス

10月1日	若松陽子	
	Camp of Pleasure	Bk 15
	Miss Murray of Lintrose	Bk 27
	Bridge over the Atlantic	Haynes
	Coats Land	Scotia Bk
11月5日	小山かおる/服部雅好	
	The Hamilton Rant	Bk 22
	The Robertson Rant	Bk 39
	Witch's Rant	Clowes
	Cromarties Rant	Bk 31
12月3日	鳥山豊喜	
	Cooper's Wife	Mitchel
	Culla Bay	Bk 41
	Cairn Edward	Foss

◀ New Year Dance 2012 ▶



1月9日(月)赤羽会館でNew Year Dance 2012を開催しました。ピアノは小海弘子さん、フィドルに大森ヒデノリさんのすばらしい音楽で、参加者169人はみなHappy Dancing!!
赤羽SCDCと会場設営のみなさん、ありがとう!

言葉の少ないティーチャーになるには

(みんなを動き続けさせよう)

ジェフリー・セリング

わたしは前号の TACTalk でスコティッシュ・カントリー・ダンスのティーチングがしゃべりすぎることについて批判的な意見を述べた。楽しいはずの趣味なのに、多くの人が見向きもしなくなる、それがしゃべりすぎである。ずっと立ったままティーチャーの話と説明を聞くというクラスに、ダンサーはやってこない。しゃべりすぎを避け、クラスがいつも動いているようにするため、ティーチャーへの実際的な助言を述べる。

- みんながクラスにやってくる時、やる気を起こさせるため音楽を流しておく。
- ウォームアップ後のクィック・スタートを考えておく。これは多弁不要な、当を得たダンスをやるということである。
- ステップを指導するのであれば、1回につき1つのステップにとどめ、ただちに音楽を使ってステップを練習させる。スキップ・チェンジの場合、8小節よりも16小節を踊らせたほうがよい。方向転換を勉強させるには2重円にして16小節踊らせたほうがよい。
- 冗舌にならないよう、前もって各ステップ、フォーメーション、ダンスについて効果的な導入方法を考えておく。詳細はあとからでも述べられるし、クラスはそんなうんちくなど必要としていない、ということがある。
- みんなは、(新しい指導ポイントの)説明よりも、1回だけでなくもっと動きたいという場合があり、これを助けること。多くの場合、クラス自体に修正機能があり、ダンサー自身も2回、3回と重ねるうちに正しい動きを会得できる。
- ダンスを指導するとき、長いリカップ、長い口頭説明にたよってはならない。たとえば、1~8小節が hands across and back の場合、「みなさん、これは知っているよね」という代わりに、クラスをすぐ踊らせるべきである。
- いままで練習したぜんぶの動きを含むダンスとともに、毎回みんなにとって新しいフォーメーション、動きが含まれるダンスを1つ入れること。
- 新しいフォーメーションをやったあと、トップ・カップルをボトムに移動させ、つぎのカップルにそのムーブメントをウォークないしダンスさせる。そうすることで、みんなが会得できる。これをつづけること。
- ダンスを指導したあと、長々とそれをリカップするのは不要である。最初の8小節を思い出させるだけでよく、すぐにダンシングさせること。
- レッスン・プランでは、指導時に会場のどこに立つか目印をつけておくこと。それらの位置をチェックし、ダンシングができないところであれば、レッスン・プランはどこかが間違っている。
- 踊り方やフォーメーションに間違いが見られたとき、なにを間違えたのか、どうすべきだったのかを説明しないこと。それを受け入れ、正しいやり方を見せること。
- なかに加わってデモンストレーションしたり、クラスをリズムカルに動かすことができなければ、なにごとにも説明してはならない。
- 全員が動けるようセットを再編成する。たとえば、3カップル・ダンスを指導する場合で、1~16小節が2カップルのムーブメントならば、クラスを2カップル・セットになおして2カップル部分を指導し、ついで3カップル・セットにして残りの部分を指導する。
- セットにあぶれたダンサーがでた場合は、トップの近く(または音楽の近く)にいさせるようにすれば、あぶれたダンサーに気を配ることができる。会場の向こう側では、それらダンサーをそのままにしがちである。あぶれたダンサーとセット中のダンサーとをできるだけ早く交替させるように努めること。
- あぶれたダンサーが1人のときは、その人と踊ること。指導とダンシングをいっしょにやるのはまったくくたびれるが、ともかくがんばること。
- 長い指導時間を要する複雑なダンスをやる場合、その前後にはごく短い説明ですむダンスを予定すること。精神集中を必要とする複雑なダンスをもう一つやる場合は、クラスの最後か次の回のクラスで踊ることを考えるべきである。そうすることで十分な練習成果が得られる。
- 信頼できる2、3のメンバーに、「わたし、しゃべりすぎている?」、「立ったままできるときが多かった?」、「指導過剰だった?」と問うこと。これらの問いはしょっちゅう(もちろんこっそりと)行なうこと。
- 人は踊りにくるのであって、話を聞きにくるのではない。これを忘れてはならない。

(How NOT to be that “Too Talky Teacher”
by Geoffrey Selling, from Tactalk September
2011) ■

コードは1つ？ それとも2つ？

アレスター・マクファジェン

最近（2003年）、ダンスをはじめの前、2コードにおけるダンサーの動きについて議論が交わされた。この文ではその論議における2つの主張を紹介する。

現在 RSCDS の全ブックに、2コード・ダンスは11ダンスある。はじめのコードでパートナーとあいさつし、第2のコードでスターティング・ポジションに移る、というものである。11のうち4ダンスはモダン・スタイルで、2ndコードで3rd & 4thカップルがオポジット・サイドにクロスする。のこりの7ダンスはすべて18世紀・19世紀のもので、もっともよく知られているダンスに The Glasgow Highlanders (Book 2) がある。

2コード廃止論者は、コードはバウ&カーツィにのみ使うべきであって、2ndコードを Autumn in Appin (Book 31) のように3rd & 4thカップルがサイドを変えるために用いるという RSCDS のやりかたは遺憾であるとしている。カントリー・ダンサーはいま、標準のロングワイズ・セットでない、Autumn in Appin のような変化したセット（ソサエティおよび非ソサエティ・ダンスでもますますふえている）をつくるのには十分慣れており、ダンサーはシングル・コードの前に所定のスターティング・ポジションに位置すべきである、という主張である。ダンスがアンコールされるとき、ダンサーはコード1回を歓迎しており、ダンサーおよびミュージシャンにおこる「1回コードか2回か、どっちなんだ？」という迷いを払しょくする、ともいう。

音楽レコーディングの世界では概してコード1回を受け入れており、録音音楽に依存しているグループはこのうごきを容認できるとしている。グループが所持している録音音楽には限りがあり、指定の録音がなく代わりの音楽を使おうとすると、2コードは選択の幅を狭めることになる。

コード1回の熱烈歓迎者は、The Glasgow Highlanders の特別なポジションを認識している。

1st woman と 2nd カップルによる位置変更はダンスの一部であり、このダンスは1回コードの原則から除外されるといっている。しかしながらかれらが強く主張しているのは、2nd コードは位置変更後のあいさつに使うべきもの、ということである。このやり方によれば、せわしなく粗野な位置変更を避けることができる。

2コード擁護派が指摘するのは、The Glasgow Highlanders に加えて、他のダンスでも2コードのルールが70年以上にわたりつづけられてきた、というものである。これらのダンスでは、2ndコードで1stカップルがオポジット・サイドにクロスし、1stカップルはボトムに達するまでそのサイドを維持する。2コード廃止論者が「The Glasgow Highlanders は例外である」というのはまったくおかしい、と反論している。ダンスによって1コードのルールを適用したりしなかったりするのは、混乱をまねくともいう。

2コードを擁護する立場で、つぎのように主張している。位置変更を要するダンサーはセット・カウントの完了後に自分たちの位置を認識するのみで、2ndコードがそれらダンサーを所定の位置につかせる適切な方法と考える、と。しかしながら擁護派は、ダンサーが所定の位置につくにはそれなりの間が必要ということ、ミュージシャンたちはもっとよくわかってほしい、といっている。

2ndコードでダンス開始位置にうごくという、80年あるいはそれ以上につづいた伝統が、2コードを維持する一つの理由である。この伝統の証拠となるものは何だろうか？

The Glasgow Highlanders を記載した Book 2 初版 (1924) にコード数は述べられていない。2ndコードにおける位置変更は、のちのちの改訂版で採り入れられたものである。

踊り方を協議するため、1926年10月にエジンバラで SCDS 特別会議がひらかれた。議題に The Duke is Welcome to Inverness [別名 Lady Macintosh's Rant] (Book 3) があり、その議事録には「1st man and woman は（コードで）位置を変えてスタートする」と書かれている。

The Glasgow Highlanders の作者でグラスゴーのダンス教師、ウォルター・ギリスはコードについてはなにも述べていないが、そのころグラスゴ

ーでは別のダンス教師も活躍していた。ジェームズ・ロバートソンがその人で、ダンス音楽集 *Kerr's Collection* 中の 22 曲に踊りを振り付けた人物である。その一つが *The Glasgow Highlanders* で、これについてはつぎのように記している。

「2 列のダンサーで、コード〔単数〕中に、ないしは最初の 8 小節演奏中に、1st lady はクロスオーバーして *gentleman* の位置、パートナーの右に入る…」

ジェームズ・ロバートソンにとって、あるいは *Kerr's Collection* の有用性を認め、ロバートソンの説明書を守ってきたミュージシャン、ダンサーにとって、1 コードで開始位置に動くことは許

容されるものであった。

2 コードを強く主張する人たちは、長い間に確立し、受け入れられてきたやり方にいま変更を加えることは、大きな混乱を招く、と頑強である。

ことしの *Book 43* から RSCDS 会員に送られる証拠となるダンスは、現状維持を会員サービス委員会が容認したものである。ダンス開始の前にダンサーが所定位置にうごくという、*Fifty Years On* (ジョン・ドゥルーリ作) のような 2 コード・ダンスはこれからもつづくと思う。(One Chord or Two? by Alastair MaxFadyen, RSCDS Bulletin No.81 October 2003) ■

新 CD・Book 紹介

Tom Toriyama

(1) *The Primrose Collection I & II* (浦和スコティッシュ・カントリー・ダンス・グループ)

The Marry Mate (32R-3C), *Junko and her Fellows* (32S-3C), *In the Eyes of Hitomi* (32S-3S), *Millbrae* (32R-5C), *Argyll Jig* (32J-3C), *Le Dix Juillet* (32S-4C), *Drive the Hot Summer Away* (32R-3C), *Bob Roy* (40R-4C), *A Brisk Snake* (32R-3S), *Dancing Confetti* (32R-4C), *A Flitting Small White* (32R-3C), *The Friendship* (32J-3C), *Gentle Breeze* (32S-2C), *Mayumi's Fancy* (32S-4C), *The Primrose Strathspey* (32S-SQ), *The Ring of the Hearts* (32S-3S), *Silver Wedding* (48S/48R-4C), *Songs without Words* (32J-4C), *The Temari* (64R-SQ)

(2) *The Berkhamsted Diamond Collection* by Sandy Nixon Band (BERK001)

Sixtieth Celebrations (8x32J), *Berkhamsted Castle* (8x32R), *The Foundling* (3x32S), *The Potten End Reel* (8x32R), *Chiltern Chase* (4x40J), *The Ladies of Berkeau* (8x32S), *Ocean Voyage* (5x32H), *Trip to Perth* (6x32J), *Diamond Reflections* (6x32S), *Dulce in Dacorum est* (4x40H), *Lightning at Dawn* (4x32J), *Silver Roses* (2x40S/40R), *Our Friend Robert* (8x32R), *Lord Brownslow's Strathspey* (3x32S), *Galbraith Gold* (8x32H), *The Other Left* (4x32J), *Monday Welcome* (8x32R)

(3) *Dancing on Air* by Muriel Johnstone (SSCD30)

Ayrshire Craig (8x32R), *Mrs Jappy's Measure* (8x32S), *Denise's Delight* (4x32J), *The Paris Celebration Medley* (5x32S/32R), *The Paris Celebration Medley* (3x32S/32R), *Fran's Fancy* (4x32S), *Twelfth Night Revels* (8x40J), *The Buckie Loon* (8x32R), *The Dilemma* (3x48S/48J)), *October in Rechberg* (3x32S), *Miss Emily Gordon's Jig* (8x32J), *David's Delight* (8x32S)), *The 50th Parallel* (5x48R)

(1) は、ブック序文にあるとおり、1991 年出版の *Primrose Collection* と、2001 年出版の *Primrose Collection II* の合本である。松橋順子さん、稲垣俊さんなど浦和 SCDG 会員および関係者が考案したダンスを収録している。オリジナル出版は手作りのガリ

版であったが、同グループ 35 周年を記念して作られたこの合本はタイプフェイス (Verdana とおもわれる)、レイアウト、用紙、製本ともしっかりしていて安心できる。(ちなみに、東京ブランチ 20 周年記念誌は労作にもかかわらず、粗悪紙使用のため入手したとき落胆した)。

32 小節・3 カップルのリールは、「R. 32x8, 3C」などというおかしな表記ではなく、正統の

「32-bar reel for 3 couples in a 4-couple longwise set」ときちんと書かれているし、アンダーラインはどこにもない。今後の日本におけるダンスブック出版の手本ともいえるべき出来ばえである。

ダンスブックのご注文は、直接同グループにどうぞ。〔注文略号：プリムローズ・ブック〕

郵便振替

00110-3-582981 浦和スコティッシュ

送料込み ¥700

問合せ：浦和 SCDG 佐藤雅紀 048-885-1894

(2) はロンドン北西郊外の Berkhamsted バーカムステッド Strathspey and Reel Club が創立 60 年を記念して出版したダンスブックおよび CD である。同クラブは 10 年前にも 50 周年を祝ってダイヤモンド・コレクションを出したが、本は素朴な装丁、CD はケン・マートルのピアノという組み合わせで、踊り方を精査してみようという気になれなかった。

今回のブックと CD は堂々たるもので、同クラブの「どうだ!」という気概が感じられる。

17 ダンスは、もちろんクラブの会員が作ったものである。ジグ 5、リール (ホーンパイプ含む) 7、ストラスペイ (メドレー含む) 5 ダンスで、すべてにケン・マートル、ジョン・レントンらによるフルの楽譜が付いている。他者のダンスとの違いを明らかにするため、えてして奇妙なムーブメントが含まれることが多く、このブックにもその傾向はあるけれども、4 回連続の set and link three というような首をかしげるような動きはなく、どのダンスも許容できる範囲である。Dulce in Dacorum est の bars 13-16 の動きは 2 カップルセットで十分練習したのち、4 カップルで踊ったほうがよいと思う。The Foundling で bars 3-8 の half reel of six in the middle は、両端に出たダンサーは bar 4、6、8 において ACW に小さくソロでカーブラウンドする必要がある。この箇所の動きはことばではなく、図で表してもらったほうがよほどわかりやすいのに、と思う。おもしろいと思ったのは 5 カップルダンスの Ocean Voyage オーシャン・ボイジで、ドルフィン・リールに慣れたダンサーなら楽しく踊れる。巻末にはピリング方式のダイヤグラムが全ダンスについて載っているの、日本人には便利である。

サンディ・ニクソン楽団はいつものとおりフィ

ドルなしである。8x32 のクイックタイムのスピードは 4 分 35 秒でほぼ標準であるが、8x32 のストラスペイは 7 分 27 秒、1960 年代の早さである。元気のいい音であるが、情緒が少ないこの楽団の特徴がこの CD にも表れている。クイックタイムが 7 割のこのブックには、サンディ・ニクソンは最適の組合せである。

〔注文略号：バーカム・セット〕

(3) は RSCDS マガジン 13 号で紹介されたブックと CD。マガジン批評者のジュレミー・ヒルのいうとおり、経験の少ないダンサーには向いていない、こったダンスが多い。

演奏は多重録音のミュリアル・ジョンストンのピアノとダブルベース (コントラバス) の組み合わせだが、ダブルベース奏者の名前はなく、おそらくベース部分は MIDI (電子式音楽発生機) によるものであろう。

ジュレミー・ヒルの評はベタボメであるが、たしかにミュリアルの個性は十分に感じられるが、クラスでこのブックの踊りをやるかと問われれば、ちょっと考えさせてくれ、である。踊りは難しいし音はピアノだけ、がその理由である。スピードは相当遅く、8x32 のクイックタイムは 4 分 50 秒、8x32 のストラスペイは 8 分 50 秒 (9 分というのものもある) である。持っていれば、いつか役に立つというブックと CD である。CD はセロハン包装ではない。

〔注文略号：ミュリアル・セット〕

以上の品物のご注文は注文略号、数量、金額を明記のうえ、

郵便振替 00240-0-63517 東京ブランチ
でお申し込みください (送料込み)。

バーカム・セット ¥2,600

ミュリアル・セット ¥2,900

ショップ担当 金田治子 043-485-8951

hrk.kaneda@gmail.com

締切り 2 月 17 日 (金)

お渡し予定 3 月末■